

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 校訓・・・「知徳・仁愛・高志」
人生に必要な多くの知識を得て、それらを上手く生かす能力（知恵）を身につけ、精神的にも道徳的にも優れた品性や人格を有するとともに、他者を思いやる心を大切に、自ら将来の夢に向かって高い志を持ち、積極的に行動する人間を育成する。
- 教育方針
 - ・規範意識を高め、社会性、公共性を兼ね備えた人材を育成する。
 - ・自己の理解を深める教育を実施し、命を大切に、他者を思いやる人権感覚を備えた人材を育成する。
 - ・職業意識を高める教育を実践し、豊かな勤労観・職業観を身につけた人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 基礎学力の充実と確かな学力の育成
 - (1) 「わかる授業・充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。
「授業アンケート」の分析結果を踏まえ、授業の在り方や工夫等についての研究授業や研修を企画し、授業力の向上をめざす。
 - (2) 家庭学習に取り組む力の育成を図る。
家庭学習時間ゼロの生徒をなくす取組みを実施する。また、現在実施している講習や補習をさらに充実させる。
※ICTを活用した授業を実践した教員の割合 平成25年度35%→平成28年度50% ※授業満足度 平成25年度72%→平成28年度80%
※授業外学習時間ゼロの生徒 平成25年度20%→平成28年度5% ※授業外学習時間/日 平成25年度38分→平成28年度53分
- 2 規範意識を高め、社会性、公共性を兼ね備えた人材の育成
 - (1) 遅刻者数を減少させる取組みを全校的に実施する。
入学当初からの生活指導や遅刻者に対する早期の特別指導を行い、保護者の協力も得ながら、「時間を守る」姿勢・意識の徹底を図る。
 - (2) 学校行事や部活動等を通じて生徒を育てる。
学習活動や学校行事、部活動など、さまざまな教育活動を通じて、これからの社会の中で必要となる知識やスキルを身につけさせる。
※生指遅刻者数 平成25年度3050人→平成28年度1500人 ※部活動加入率 平成25年度72%→平成28年度80%
- 3 将来への夢の実現に向けたキャリア教育の実践
 - (1) 進路実現のための積極的な支援を行う。
1年次から進路情報の提供、進路相談、進路説明会や職場見学、職場体験等を実施し、生徒の進路実現に向けた取組みの強化を図る。
 - (2) キャリアカウンセリングの充実に取り組む。
一人ひとりの学力の伸長をめざしながら、「実践的キャリア支援教育・職業教育」における3年間（H23～25）で実践した内容を継続して取り組む。
※難関・中堅私立大学合格数 平成25年度17人→平成28年度30人 ※進路未定率 平成25年度2.6%→平成28年度0%
※学校教育自己診断（生徒）における進路指導に関する項目の肯定率 平成25年度68%→平成28年度75%
- 4 学校の特色づくりの推進と広報活動の活性化
 - (1) エリア教育のさらなる充実に向けた取り組みを行う。
大学などの外部機関との連携を深めるとともに、特色あるエリアの授業を実施するためにカリキュラムや履修方法の再検討を行う。
 - (2) 学校見学会や学校ホームページ等を通じて、広報活動の活性化を図る。
学校見学会を魅力ある内容にするための方策を講じるとともに学校ホームページの内容の充実を図る。
※ホームページ更新数 平成25年度86回→平成28年度120回

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・今年度、わかる授業・充実した授業をめざした授業改善の一環として教員相互授業見学週間を創設し、教員全体での見学回数は平均2回/人であった。生徒授業アンケートにおいて授業満足度は73%となり前年度72%とほぼ変わらずであった。「多くの授業は内容が充実しており満足できる」は保護者の80%となっている。教材研究をはじめ各教員の研鑽を積み重ねるとともに、年間を通して相互授業見学を行い、益々の授業力向上をめざしていく。 ・講習・補習への取組みについて、「授業以外にも必要な教科で講習や補習等の取組みがよく行われている」は教員の89%となり、保護者の88%から「放課後等の補習・講習は効果的なものである」と評価されている。</p> <p>【進路指導】 ・中期的目標に、将来への夢の実現に向けたキャリア教育の実践を掲げて取り組んできた。将来の進路や生き方について学べたということについての生徒の肯定的な回答がH24:63%→H25:68%→H26:73%となっている。進路指導部及び各学年の協力体制のもと、1年次からの継続的な進路行事の推進及び進路情報の提供に取り組んできたことの結果であろう。</p> <p>【学校生活】 ・「生徒は楽しそうに学校に来ている」について、教員は100%が肯定的回答であるが、生徒は72%、保護者は46%となり、大きく乖離している。学校生活の中では「楽しいこと」だけでなく、「我慢すること」や「鍛えること」などさまざまな要素があるが、傾聴の姿勢をもちながら「楽しくかつ鍛える」というバランスを保って取り組んでいきたい。</p>	<p>第1回（8/22） ◇学校経営計画及び進路状況について ・地域のニーズを大切にした特色ある学校づくりをしていくことが重要である。 ・〇〇大学合格や〇〇職に就くことなど、到達して終わりという目標を設定している生徒が一般的に多いのではないか。学校は質の高い目標設定をさせて、生涯にわたって努力を継続し自立していくように、生徒を教育していくことを期待する。 ◇学校生活について ・遅刻者数等の推移をみると、落ち着いた良い学校であると感じる。生徒への更なる指導を期待する。</p> <p>第2回（11/8） ◇普通科専門コース設置校への改編について ・国際交流とカナダ留学、資格試験の拡充等を特色にするといいいのではないか。 ・専門科目以上に1年生の基礎・基本科目の徹底が重要である。それが2年生からの専門コースに繋がる。 ・専門コース生の特徴を生かしたボランティアの取組みも価値がある。 ・大学のボランティア活動との連携も推進していくといいいのではないか。</p> <p>第3回（1/27） ◇学校教育自己診断の結果及び学校評価について ・読書習慣の定着を図ることは重要である。図書室の利用者増のために生徒にリサーチを行い、ニーズに応じていくと良い。 ・授業の様子を撮影しておけば、各教員がいつでも見ることが可能である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実と確かな学力の形成	(1)「わかる授業・充実した授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートを活用した授業改善の推進と公開授業の充実 イ ICTを活用した授業の取組み	ア・生徒授業アンケートの分析結果の活用方法を研究し、授業改善に取り組む。 ・授業アンケート結果の有効活用が、進路実績の向上に結びつき、生徒の思考力・判断力・表現力が伸びるよう進路指導部や学年、教科が工夫し、積極的な取り組みを実行する。 イ・ICTを活用した授業を積極的に実施できるように校内体制を整備し、ICTを活用した授業に取り組む教員を増やす。	ア・生徒授業アンケートの授業満足度 75% (H25 ; 72%) イ・ICTを活用した授業を実践した教員の割合 40% (H25 ; 35%)	ア・生徒授業アンケートの授業満足度は 73%であった。(△) ・第 1 回授業アンケート結果返却後に 1 カ月の教員相互授業見学週間を創設した。見学実績回数は平均 2 回/人であった。次年度は年間を通して相互授業見学を行い、授業力向上の一助としたい。 イ・ICT 機器(プロジェクター、大型 TV、書画カメラ、スクリーン等)の整備を行った。 ・ICT 活用授業を実践した教員は 43%であった。次年度は他校の ICT 活用公開研究授業見学会等も行いながら一層推進していきたい。(○)
	(2)「家庭学習」に取り組む力の育成 ウ 自学自習力を育むための取組み エ 図書館の活用や資格取得の奨励が家庭学習に結びつく取組み	ウ・講習や補習において、生徒の家庭学習に結びつく内容のものを取り入れる工夫をする。 ・生徒が家庭学習に取り組むように、教科間で調整し、宿題や課題を効果的に課す。 ・自習室の設備を充実させ、生徒が自学自習に取り組むような環境作りをする。 エ・図書館の本を活用した家庭学習に結びつくような取組みを行う。 ・漢検や英検などの資格取得のための教材を家庭学習として取り入れる。	ウ・夏季進学講習会における参加者数を前年度比 10%増加 (H25 ; 272 名) ・授業外学習時間を前年度比 5 分増加 (H25 ; 38 分) エ・図書館利用率 20% (H25 ; 15%) ・英検・漢検受験者数を前年度比 15%増加 (H25 ; 54 人)	ウ・夏季進学講習会における参加者数は 190 人であり減少したが、今年度は夏季以外の講習・補習の広がりがあり、今後に繋がることが期待される。(△) ・授業外学習時間は 40 分であった。家庭内での学習が難しい生徒は、学校できちんと学習して帰るなど、学習習慣の定着を図りたい。(△) エ・新刊本や原作本など興味を持ちそうな書籍の購入を行ってきたが、図書館利用率は 15%で、1 年生は 25%であった。利用生徒が定着する工夫並びに教科との連携など、取り組みを行っていく必要がある。(△) ・英検 33 人、漢検 58 人で合計 91 人であり前年度比 69%増加になった。次年度もこの取組みを継続していきたい。(◎)
	(1) 学校行事や部活動等を通じた人材の育成 ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化を図るとともに、社会性や公共性を兼ね備えた人材育成	ア・体育祭や文化祭等の行事を魅力的なものとするために、前年度の総括をもとに内容を再検討し、生徒の参加意欲を高める工夫を行う。 イ・生徒自治会と部活動の連携を強化し、部活動加入者の校内での役割を明確にし、リーダーシップを発揮させることにより、部活動の活性化を図る。 ・中学校との合同練習等で、将来的に部活動加入率の向上に結びつくような取組みを行う。 ・部活動の加入率を向上させる取組み。	ア・2 大行事(体育祭、文化祭)における生徒アンケートの満足度 87% (H25 ; 85%) イ・部活動加入率 75% (H25 ; 72%)	ア・2 大行事の満足度は 88%であった。アンケートの分析により改善を図り、次年度、一層生徒の参加意欲を高めていきたい。(○) イ・部活動加入率は 78%となり増加した。特に 1 年生の加入率は 83%となった。男・女子バレーボール、弓道、女子ダンス、軽音楽の部員数増加が顕著であった。(◎) ・バスケットボール部及びバレーボール部の生徒が中学生(12 中学校 200 人、6 中学校 150 人)を集めてスポーツ大会を企画・運営するなど中学校との合同練習も実施した。
(2) 遅刻者数を減少させる全校的な取組み ウ 遅刻指導の工夫と取組み エ 保護者と連携した遅刻指導の取組み	ウ・遅刻者数を減らすため、生徒指導週間だけでなく、さらに踏み込んだものにする。 ・授業遅刻をなくすため、全教員による「ベル着指導」を徹底する。 エ・PTA 生活指導委員会とさらなる協力体制を築き、PTA 実行委員や学年委員の協力のもと、保護者と連携した遅刻指導の取組み。	ウ・生指遅刻者数を前年度比 20%減少 (H25 ; 3050 人) エ・通学指導における PTA の参加者数を前年度比 10%増加 (H25 ; 33 人)	ウ・生指遅刻者数は 2353 人、前年度比 23%減少となって生活指導部、学年の取組みの成果が表れた。「あたりまえの基準」を上げていくことを生徒に求めて次年度も取り組みたい。(◎) エ・年間 3 回の PTA 合同交通安全指導の保護者参加は 23 人で前年度より減少した。保護者とともに指導する取組みは次年度も継続していきたい。(△)	
4 学校の特色づくりの推進と広報活動の活性化	(1) エリア教育のさらなる充実 ア 重点エリアを策定し、学校の特色を明確化 イ 大学などの外部機関との連携	ア・現在の 6 つの探究エリアから、重点エリアとして策定すべきエリアを絞り込み、カリキュラムや履修方法の検討を行う。 ・校外におけるエリアの授業をより発展的にを行い更なる効果が期待できる取り組みにする。 イ・外部機関等と幅広く連携し、講師招聘による出前授業や外部での生徒の体験授業等を実施する。	ア・エリア別活動における生徒アンケートの満足度 90%以上維持 (H25 ; 90%) イ・出前授業、体験授業等実施後のアンケートにおける満足度 70%以上 (H26 から測定)	ア・エリア別活動における満足度は 76%であった。活動の際に時間的に忙しいとの声があり、次年度は内容とともに工夫の必要がある。(△) ・普通科専門コース設置校に決まり、改編に向けて重点エリアの絞り込みから専門コースの内容及びカリキュラムの検討まで大きく進めることができた。 イ・体験授業・出前授業実施後のアンケートにおける満足度は 82%であった。今後とも講師招聘による出前授業を実施していきたい。(◎)
	(2) 広報活動の活性化に向けた取組み ウ 中学校訪問や学校説明会の充実 エ 生徒が参加できる地域活動やボランティア活動の推進	ウ・ターゲットを明確にした中学校訪問や学校説明会を実施する。 ・学校説明会等で全クラブが複数回の部活動体験を実施する。 ・部活動顧問の中学校訪問または部活動ニュースを作成する。 エ・地域活動への積極的な参加を行う。 ・SGS(スクールガードサポーター)等のボランティア活動をさらに充実させる。	ウ・学校説明会における参加者数を前年度比 10%増加 (H25 ; 514 人) エ・地域活動の参加回数を前年度比 50%増加 (H25 ; 4 回)	ウ・学校説明会における参加者は 624 人であり、前年度比 21%増加となった。次年度は普通科専門コース設置校改編の広報が重要となるため、学校のパンフレットも一新して、一層の取組みに努めたい。(◎) エ・SGS を 4 回行った以外にも地域の清掃活動、農業活動、青年祭への協力等を行った。次年度以降、生徒ボランティアの新規取組みを企画していきたい。(○)